

## 熊本県立熊本西高等学校 平成30年度学校評価表

### 1 学校教育目標

「清・明・和」の教えを根幹とし、知・徳・体の調和の取れた文武両道の教育をとおして、世界的視野に立った日本人の育成を目指す。

### 2 本年度の重点目標

- 1 学力の向上                      ・ ・ ・ 論理的思考を中心とした学力向上
- 2 生徒指導の徹底                ・ ・ ・ 基本的生活習慣の確立
- 3 生徒理解                        ・ ・ ・ 個に応じた個を大切にした指導の徹底
- 4 進路目標実現                  ・ ・ ・ 行きたい進路目標（夢）の実現
- 5 体力の向上と逞しい精神力    ・ ・ ・ 人間力を高める

めざす生徒像「高い志を持ち夢実現に向かって輝く生徒」の実現のため、中学生が目標とする高校（西区学校教育の拠点校）となるようキャリア教育としての進路指導をとおして、進路実績の向上を図る。また、地域連携、小中高大連携を充実させ、生徒・保護者や地域の期待に応える。本校の特色や弱みが強みとなるよう学校改革を加速化し、より大勢の中学生が志望する学校となり、西高プライドを確立する。

### 3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実と土曜日授業・学校行事の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一日体験入学、土曜授業での西高公開、西高説明会の内容充実</li> <li>・ 広報誌の内容充実</li> <li>・ 学校HPの随時更新（更新回数100回以上）</li> <li>・ 学校行事開放による保護者や地域との交流</li> <li>・ 学校評議員会の実施（学校評価や本校取組の検証）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従来の取組内容にプラスワンの視点を取り入れた内容充実</li> <li>・ 担当部署、他の部との連携のもと、学校全体としての取組</li> <li>・ 生徒（会）主体を目指し、生徒が活躍する場を設定</li> <li>・ 各中学校への訪問担当者を固定化し、定期的訪問で関係深化</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一日体験入学は、600人を超える参加があり、アンケート結果も大変好評であった。中学校での高校説明会も工夫された内容であるとの評価を得た。</li> <li>・ 西高新聞を5月号から12月号まで予定通り発行することができ、西高生の活躍を伝えることができた。HPの更新回数は12月末で約120回と目標を上回った。</li> </ul>

地域とつながる学校	小中高大の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高大連携事業アカデミックインターンシップの推進</li> <li>・ 地域の学校としての情報発信と理解浸透</li> <li>・ 英語教育の支援、高校理解の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熊本大、熊本県立大、熊本学園大、崇城大、熊本保健科学大との継続的な連携</li> <li>・ 三和・花陵中学校との合同授業・情報交換会実施</li> <li>・ 城山・高橋・池上小学校との連携をとおして、地域に浸透</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの高大連携を契機に、アカデミックインターンシップは大きく推進したが、職員の役割分担等に課題が残った。</li> <li>・ 城山小学校の「ふれあい教室」、高橋小との交流では本校生が小学生を積極的に指導し、好評だった。</li> <li>・ 1年生が熊本県立大学、2年生が北九州市立大学を訪問し、学ぶ意義や大学への理解を深めた。</li> </ul>
学校改革	NEXT西高プロジェクトの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学校改革」「学校魅力向上」「生徒募集」の各プロジェクトチームによる活発な企画提言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の現状把握、再見直しによる新たな企画を実施</li> <li>・ 生徒が入学して良かったと思える学校行事、学校のシステム再構築</li> <li>・ 体験入学、学校説明会、新規募集事業の検討</li> <li>・ P Tをとおして行うO J T推進</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全職員にアンケートを行い、職員の意識と学校の実態を把握することで、日課変更やゼミの在り方を見直すなど、生徒と向き合う時間の確保に向けた改革を進めることができた。</li> <li>・ 体験入学や学校説明会の内容の改善は、中学校から好評を得た。今後は行事の見直し等をさらに進めていく予定である。</li> </ul>
	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 超過勤務時間の縮減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校閉庁日の設定</li> <li>・ 部活動の練習日、活動日の月間計画公表</li> <li>・ 職員の意識変容</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 超過勤務時間を前年比20%縮減することができた。タイムレコーダーの導入で超過勤務時間を客観的に把握することにより、さらに意識改革を進めたい。</li> </ul>
学力向上	「自分の考えを筋道立てて説明できる」能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程研究指定事業による思考力・判断力・表現力を伸ばす授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校・授業、生徒に関わる強み、弱みを共有</li> <li>・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</li> <li>・ 教科毎の取組を全校で理解</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働学習や話し合う場面が増えたことで生徒の学習への姿勢に変化がみられるようになった。</li> <li>・ 各教科の特性に応じた活動や少人数グループによる相互授業見学を通して、職員個々の授業改善への意識が高まり、授業の質の変化や授業力向上につながった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究授業・公開授業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開授業月間（年2回）の設定</li> <li>・ 授業見学レポートの活用</li> <li>・ 教科会の充実</li> </ul>		

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業評価の実施と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業評価結果を個々の職員で活用</li> <li>・授業改善及び授業力向上</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的思考力をみる問題の研究の動機付けができた。</li> <li>・新しい大学入試や新学習指導要領の研究をさらに進めていく必要がある。</li> </ul>
	学力の充実	教科及び進路指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科や関係する部署との連携と職員の教科指導力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で生徒が主体的に考える授業研究に取り組み、生徒のやる気を引き出す</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試改革や「高校生のための学びの基礎診断」の導入を見据えながら学習意欲の向上につながる指導力を養成する。</li> </ul>
キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育	ポートフォリオの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のキャリア着実に積み上げ、新入試制度に対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進校に学び、効果的なポートフォリオを定着</li> <li>・各学年の進路研修会を充実し、全校で情報を共有化</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオに関する職員研修や先進校視察を行った。全体の動きを踏まえ、本校に相応しい形態の構築が課題である。</li> </ul>
	一人一人の進路目標達成	進路実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度を上回る進路実績を上げる。(国公立大合格者20人・公務員指導の充実)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路相談、面談の充実</li> <li>・個別指導・面接指導・学力検討会の充実</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路研修により、個別指導や面談の充実が図られ、昨年度を上回る実績を挙げた。</li> </ul>
		進路意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢や目標を与える取組の実施</li> <li>・インターンシップの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本や熊本で活躍する人による講演会の実施</li> <li>・生徒の適性等を考慮したインターンシップの実施、幅広い受入先の開拓</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の3倍の人数がインターンシップを経験し、職員も生徒も進路に対する意識が高まった。</li> <li>・次年度のアカデミックインターンシップ実施に至るまでの準備に、職員の数を増やしての取組が必要だと思われる。</li> </ul>
	交通安全	交通事故・マナー違反をなくす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校での自転車事故防止</li> <li>・命の尊さを意識する交通指導実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全集会で危険箇所の理解と危険行為の撲滅を図る</li> <li>・警察や地域の協力を仰ぎ、生徒の命を守る</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の命を守るために交通事故を防止する具体的な指導が必要。警察や地域との連携を深めるとともに次年度は自転車等ヘルメットの着用を推奨する。</li> </ul>

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間厳守</li> <li>・爽やかなあいさつ</li> <li>・正しい着こなし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の遅刻者数 1.0 人／日（昨年度 1.37 人／日）</li> <li>・生徒対象アンケート「あいさつ・時間厳守・服装」の項目平均 3.2 以上（満点 4）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による毎朝の遅刻指導、職員からの率先した挨拶励行</li> <li>・機を逃さない服装指導</li> <li>・生徒会による挨拶・交通指導等への指導・支援</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝、慌てて登校する生徒もおり、交通事故にも繋がりにくい。余裕を持った登校をするよう保護者と協力して指導していきたい。整容面では着こなしの指導を全職員で行っていく。</li> </ul>
	能動的言動の育成	各行事における生徒の自主性の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体となった行事の企画・運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等において可能な限り、生徒主体への移行を図る</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育大会・創立記念祭ともに生徒会を中心に取り組み充実したものとなった。生徒アンケート「生徒会の主体性」3.1、「個人の積極的参加」2.8 であり、引き続き学校生活の中で満足感・充実感を味わえるよう支援していきたい。</li> </ul>
		高い志及び目標を持った高校生活実現の支援（フラスワンの指導）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全生徒が目標を持った、張りのある毎日を送る（生徒対象アンケート項目平均 3.0 以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢や目標を与える講演会等の実施</li> <li>・全職員による様々な場面での声かけ・励まし等の支援</li> </ul>		
美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境 ISO の取組推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒対象アンケートにおける美化・省エネの項目平均 3 以上（満点 4）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による掃除指導の徹底</li> <li>・細めな消灯・節電・節水</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美化・省エネ」2.8。委員会活動を充実させ、生徒が活動の主体となって取り組めるようにしたい。</li> </ul>	
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権や命の問題についての知識や考察を深める講話の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で相互に学習し合う時間を取って研修を行った。各自の思いをまとめ、共有できる資料とし、次年度以降につながる研修を重ねていく。</li> </ul>
	命を大切に する心を育む指導	自尊感情及び他者を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒対象アンケートの「命を大切に する心の育成の充実」の項目平均 3.1 以上（満点 4）</li> <li>・生徒および職員の心身のストレスの軽減</li> <li>・ボランティア活動等の体験活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等で命の大切さについて学ぶ機会を各職員が 2 学期までに 1 回以上設定</li> <li>・リラクゼーション等の知識や技術の定期的な啓発と促進</li> <li>・生徒会による取組への指導・支援</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や人権講演会ははじめあらゆる場面で命の大切さを伝える取組を行っている。</li> <li>・生徒及び職員の心のケア、関係機関との緊密な連携をさらに進めていく。</li> </ul>

いじめの防止等	人権意識の育成	いじめをしない、許さない心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ解消率 100%</li> <li>・生徒会による取組の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校いじめ防止基本方針に従い、未然防止及び早期対応の実施</li> <li>・本校独自の「こころのアンケート」の実施と活用</li> <li>・生徒会による取組への指導・支援</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめは絶対に行わないとする強い気持ちを醸成するための手立てを今後も日常的に全職員で講じていく。</li> <li>・アンケート後の対応をより迅速かつ着実に行い、生徒の声のもつ意義を理解して協力的に取り組み続ける。</li> </ul>
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	地域・保護者・関係機関との連携	学校と地域の連携・協働のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事（体育大会・創立記念祭・チャレンジウォーク等）をとおした交流事業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や関係行政機関、保護者との連携</li> <li>・近隣小・中学校、地域との積極的交流</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・保護者・関係機関へ体育大会、避難訓練等の学校行事への参加の機会や、近隣小・中学校と相互の訪問・交流機会を多く設定し、連携を深めることができた。</li> </ul>
		学校防災体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を年3回実施</li> <li>・地域と一体となった防災システム及び災害時連携体制の構築</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災型コミュニティ・スクール学校運営協議会を年3回実施し、大規模災害時を想定した避難所運営等の学校防災体制の整備・改善を図ることができた。今後も地域・保護者・関係機関へ体制の周知を図っていきたい。</li> </ul>
特色ある教育	理数科の充実	研究活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携による実習の着実な実施</li> <li>・発表会、コンテストでの入賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学との事前協議の充実</li> <li>・科学イベントへの積極参加</li> <li>・中間発表の充実による意識向上</li> <li>・課題研究の進め方の改善や講座内容の調整</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県課題研究発表会で、本校代表地学班が最優秀賞を受賞するなど、結果が出ている。しかし、全体的な研究の深化や発表スキル向上には、まだ課題がある。</li> </ul>
		志望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期選抜、後期選抜の志望者増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数科体験プログラムの実施</li> <li>・学校説明会でのPR実施</li> <li>・小中高連携活動の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR活動は、活発に取り組んできて、結果にもつながっていると考えられるが、新たな組織的な取り組みが必要だと思われる。</li> </ul>

体育コースの充実	専攻授業の充実	・専攻6種目の競技実績の向上（全国入賞数の増加）	・専門知識並びに技能の習得を目的とした講習会の実施 ・体育コース集合（2回/月）において報告会実施	A	・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業への参加など新しい学びを深めることができた。 ・専攻6種目は、着実に実績を重ねている。
	志願者の増加	・県内中学校への広報活動拡充	・PR用ポスターやDVDの作成 ・近隣中学校との交流	B	・ラグビー部のポスターを作成して学校の広報活動を行った。 ・近隣中学校との交流は、互いの日程調整を綿密に行う必要がある。

#### 4 学校関係者評価

学校関係者の方々に、地域住民、教育関係、企業や同窓生の立場から、「教育目標」「学校経営」「生徒指導」「地域連携」「特色ある教育」に加え、「学校評価」の方法や結果等について幅広く御意見をいただいた。働き方改革をはじめ多くのことがらで学校改革を推進していることに御賛同をいただいた。また、野球部の選抜甲子園大会やラグビー部、女子柔道部の活躍等に象徴される運動面での活躍によって、ますます本校が注目されていることを契機として学校の活性化、学力向上につながることを期待していただいている。

今年度、5月の交通事故被害、11月の練習試合中の不慮の事故によって生徒の尊い命が失われたことは残念でならない。今後とも生徒の安全確保並びに心のケアへの働きを続けてほしいとのお言葉もあった。

#### 5 総合評価

- (1) 学校教育目標 : 体育、理数科、インターンシップ、ボランティア活動等の生徒活動において幅広く活性化が見られた。また、世界的視野に立った生徒育成を推進するための基盤を整備することができた。
- (2) 重点目標 : 体育コース、理数科を持つ普通高校として中学生が目標とする高校（西区学校教育の拠点校）としての魅力を明確にするための取組を重視した。特に重点目標にあげた5点を推進できる体制として、中堅教師のOJTを兼ねたNEXT西高プロジェクトを実働させた。
- (3) 自己評価総括表 : 「学校改革」「学校魅力向上」「生徒募集」の各プロジェクトチームを発足し、具体的で目に見える改革を進めた。日課の変更やゼミの見直しによる生徒と向き合う時間の確保、月間計画の提示による部活動練習日の明確化、超過勤務時間の20%削減、次年度のアカデミックインターンシップ導入につながる関係各機関との連携、修学旅行の内容検討、地域と一体化した防災計画の構築、理数科の研究活動の活性化、体育コースを中心としたパラリンピック関連の学習等で成果を出した。生徒募集面では、前期（特色）選抜では、改革の成果を感じたが、後期（一般）選抜の出願状況からは課題を感じざるを得ない。特に出願数が減少した近隣中学校とは連携を密にすることでさらに信頼関係を高めたい。

## 6 次年度への課題・改善方策

- (1) アカデミックインターンシップ導入を中心とした総合的な学習の時間の充実によって、地域と連携したキャリア教育の充実を図る。
- (2) 世界的視野に立った日本人の育成のため、海外修学旅行や海外研修を積極的に導入し、生徒の成長を促す。
- (3) 授業の充実と学びの基礎診断テストを中心に据え、ゼミや模擬試験の個に応じた活用を推進することで学力向上の具体策を打ち出す。
- (4) 学校行事の企画・運営、挨拶の励行、登下校マナーの確立など生徒の主体的な活動を推奨することで生活面の充実を図る。
- (5) 学校改革・校務棚卸しを校務分掌・担任団の再構成等の目に見える改革につなげ、さらなる業務効率化と教職員の負担軽減をすすめる。